

令和2年度 第2回学校評議員会記録

- 1 日時 令和2年度12月18日(金) 9時30分～11時00分  
 2 会場 伊東市立西小学校 第一会議室  
 3 参加者 学校評議員 伊東市立さくら保育園園長 福西 正美 様  
 (株)梅家専務(地域、商店街代表) 太田 佳子 様  
 伊東市立西小学校PTA母親副代表 西田 ゆり 様  
 伊東分校職員(副校長・小学部主事・中学部主事)

|   |  |
|---|--|
| <p>評議員会の内容</p>                                      | <p>・学校概要説明と校内授業参観<br/>         ・伊東分校の学校経営計画と取組について説明<br/>         ・質疑や意見交換</p>   |
| <p>評議員に意見を求めた事項</p>                                 | <p>コロナ禍における令和2年度の取り組みや現状を説明。<br/>         以下の課題に対して、評議員の各立場での取り組みや学校への助言をいただいた。<br/>         ① 新型コロナウイルス感染症の中での対策や学校運営について<br/>         ② 伊東分校の共生・共育の在り方について<br/>         ③ 地域の人材や資源を生かした学習について<br/>         ④ 就学支援及び進路指導について</p>  |
| <p>学校評議員からの提言、感想等<br/><br/>         ○●は取組や学校の課題</p> | <p>① <b>新型コロナウイルス感染症の中での対策や学校運営について</b><br/>         ○感染が落ち着いた10月に、集会、校外学習や修学旅行等の行事を実施。<br/>         ○学校からの新型コロナウイルス感染症対策の取り組みの周知や連絡<br/>         ○国や県教育委員会等の対策指針を参考に、校内マニュアルを作成。<br/>         ●行事・校外学習活動は例年より減少。保護者の来校や参観の機会も減少。<br/>         ●保護者の不安への寄添い方・感染対策に対する温度差・対策徹底の難しさ<br/>         ●障害特性からマスク等の徹底の難しさ・環境面の厳しさ<br/>         ・企業は「会社から一人も感染者を出さない」という気持ちで対策を検討し実践。<br/>         ・園では対策をとりつつも、子どもにとっては「日常と変わらない生活」を心掛けた。校外学習など、時間や規模を縮小したり工夫して実施した。<br/>         ・保護者として、いつもと違う環境下での家庭での過ごし方の工夫を家族で模索。保護者の不安は子供に通じる。情報を見すぎず、プラス思考を大切にした。<br/>         ・4月からの休校は、親同士の情報交換や相談の機会も減ってしまった。<br/>         ・学校での子どもたちのストレスへの対応は?<br/>         ⇒マスクなど、約束を予想以上に意識してがんばっている。集団の力も大きい。守れていることやできたことをほめるようにしている。楽しい給食の時間が、リスクから制限が多くなってしまっているのは仕方ないが、寂しい。</p> <p>② <b>伊東分校の共生・共育の在り方について</b><br/>         ●例年までの直接交流から、間接交流となった。機会や交流意識は低下。<br/>         ・お互いの学習や行事を見合う機会がなく、子どもが残念がっている。<br/>         ⇒ZOOMを活用した交流や動画の交換も有効。間接交流の在り方を子どもたちが考える、ICTのスキルアップの機会とするなどプラスに考えることも必要。<br/>         ・子どもから「分校さん」という言葉が減った。小1の子は間接交流がスタンダードになってしまった。<br/>         ⇒間接交流で行っている手紙など、形に残るものの交換なども有効。<br/>         ・子どもたちは分校について、かかわることで子どもたちなりに共生・共育への理解を感じて学んでいる。その機会が持てない中で、工夫を考えたい。</p> <p>③ <b>地域の人材や資源を生かした学習について</b><br/>         ○感染が落ち着いた10月に、地域や校外学習へ出で行く学習を再開。<br/>         ●地域へ出で行く、地域の人とかかわりあう、周知の機会の減少。<br/>         ・子どもにとっては、紙面や机上ではできない「経験・体験」がとても大事。<br/>         ・園では、出かけられない分、来てもらう活動を設定。</p> <p>④ <b>就学支援及び進路指導について</b><br/>         ●地域への周知の機会の減少。<br/>         ・入学予定児にとって、体験や見学の機会がなかったり減ったりしたことは、未来の「学校」というイメージが持てない。<br/>         ⇒安全な機会の設定や、イメージを持つ工夫を検討したい。</p> |

